

## 東北大学全学教育「基礎ドイツ語」(1年生)授業 実践報告

カン, ミンギョン  
東北大学高度教養教育・学生支援機構 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/4798369>

---

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.41-41, 2021-04-30. 雷音学術出版  
バージョン :  
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International



## 1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業の目的は、ドイツ語の発音と基礎文法および語彙を学びドイツ語の基本的な四技能(聞く・話す・読む・書く)を身につけることと、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の社会と文化に触れることである。主教材としては、ドイツで出版された教科書を日本の若者向けに再編集した、ヨーロッパ言語共通参照枠 A1 レベルのコミュニケーション・アプローチの教科書を使用した。

授業は Google Classroom で授業動画(音声付きスライド)とハンドアウトを配信するオンデマンド型で行った。ハンドアウトには所々空欄を設け、キーワードを書いたり質問に答えたりしながら動画を視聴できるようにした。授業動画の視聴後は、授業日を含めて3日以内にミニットペーパー(授業内容の理解度チェックおよび応用問題)の提出を求め、またそれとは別に時々、発音の録音、リスニング、読解、作文などの課題を課した。ミニットペーパーで個別質問にも対応し、ミニットペーパーや課題は採点后コメント付きでフィードバックした。作文課題は(母語話者 TA の協力も得て)添削して返却した。ただ文法の練習問題については、すぐに正解を示すことはせず、ヒントを与える程度に留め、もう一度自分で考えてから答え合わせをするよう指導した。解答については次の授業動画で前回の授業のおさらいを兼ねて解説した。

さらに月に1回程度、リアルタイムの会話練習を取り入れた。受講生を3~4人ずつグループ分けして各グループの時間帯および Google Meet のリンクとワークシートなどの資料を事前配布し、テーマに関連して話したいことや質問したいことを用意したうえで参加するよう指示した。会話練習の際は、学生と母語話者 TA のみカメラと音声を ON にし、教員はチャットによる指示とサポート役に徹した(学生がドイツ語を聞き取れなかったり答えられなかったりして困っているときなど)。各グループ 10 分という限られた時間ではあったが、私と TA が 10 分ごとに各グループの Meet 会議室に移動する形で進めたため、学生たちは指定時間より少し早めに集合して準備をしたり、私と TA が退室した後もさらに会話練習や情報交換をしたり交流するこ

とができたようである。回を重ねるごとに発音が上達し、聴き取りや発話に慣れてくることを実感している様子の学生も多かった。

試験は Google Forms を用いて実際の授業時間内に実施した。自動採点機能があり、通常の紙での試験に比べて採点の時間短縮につながった(もちろん、エラーチェックなど手作業での調整も必要であったが)。成績評価は、「ミニットペーパー30%、課題 30%、試験 40%」と、通常の授業より平常点の割合が高い形で行った。

## 2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

東北大学では外国語科目は 2020 年度前期・後期ともに原則オンライン授業で行われ、週2コマ通年の授業(合計 60 回)が受講生と一度も教室で会うことなく終了した。後期の授業開始時に、オンライン授業の形態について Google Forms を使って受講生にアンケートを取ってみたところ、「すべてオンデマンド型が良い:68%、オンデマンド型中心(時々リアルタイム型)が良い:24%」と、オンデマンド型を望む意見が圧倒的に多かった。その一方で、リアルタイムの会話練習には毎回ほぼ全員出席し、全体的に好評であった。仲間と会話できる楽しさとその学習効果を実感できたからであろう。

今回のオンデマンド型授業で、会話練習や学生同士のコミュニケーションの機会をより多く提供できなかったことは今後の課題として残されているが、ミニットペーパーや課題の提出率が高く質問が多かったこととフィードバックを効率よく行えたことなど、通常の対面授業より良かった点もある。今後、通常の対面授業が再開しても、ハイブリッド型も含めてオンライン授業は一つの選択肢として有効であろう。